

平成27年度の実績報告

日本型直接支払制度
環境保全型農業直接支払交付金

1. 日本型直接支払制度の概要

制度の全体像

※金額は28年度予算(国)概算決定額

多面的機能支払

48,251(48,251)百万円

農地維持支払

多面的機能を支える共同活動を支援



農地法面の草刈



水路泥あげ

資源向上支払

地域資源(農地、水路、農道等)の質的向上を図る共同活動を支援



植栽活動



水路ひび割れ補修

中山間地域等直接支払

26,300(29,000)百万円

中山間地域等の条件不利地域(傾斜地等)と平地とのコスト差(生産費)を支援。



中山間地域

環境保全型農業直接支払

2,410(2,609)百万円

自然環境の保全に資する農業生産活動の実施に伴う追加的コストを支援。

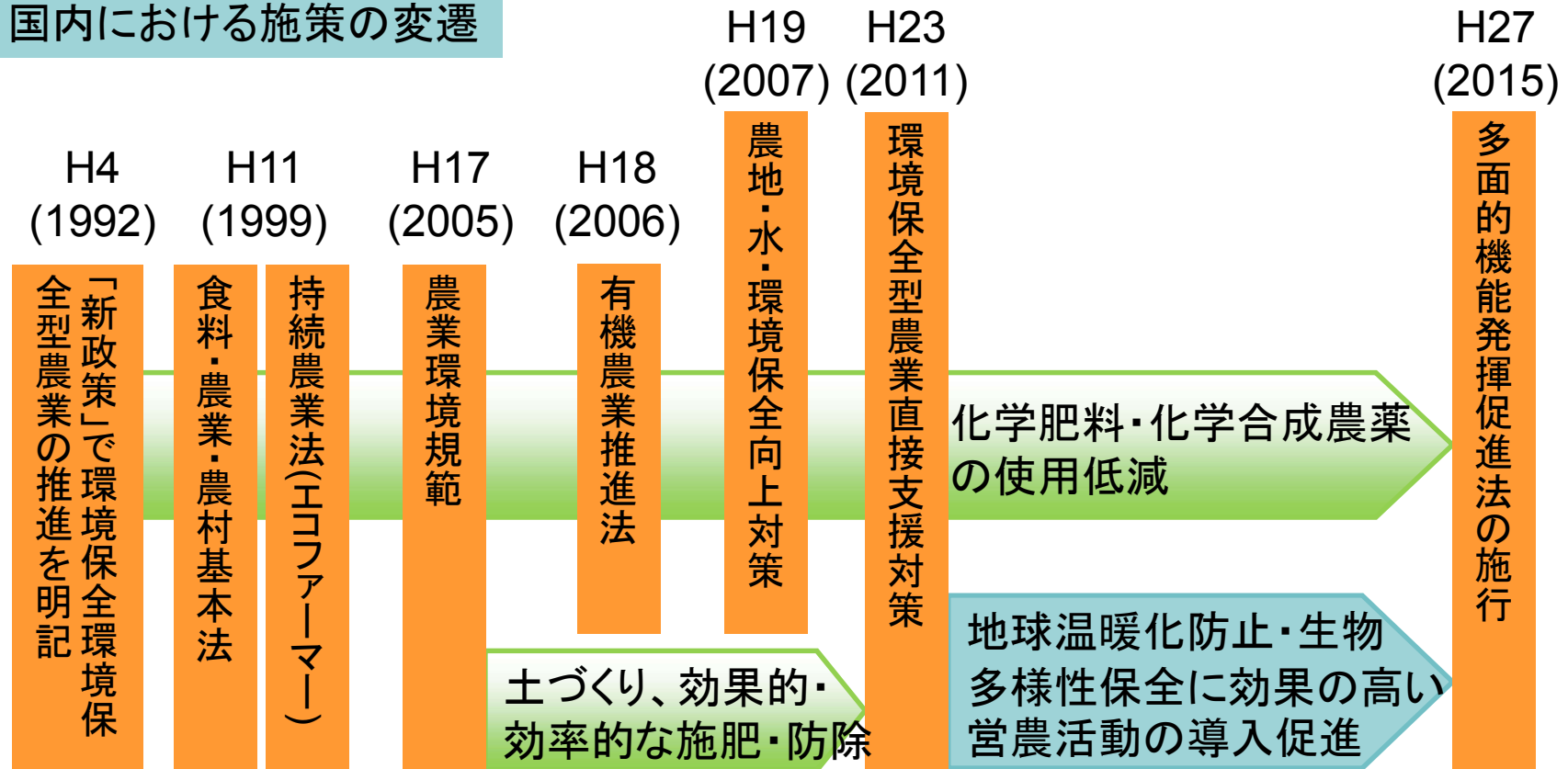


カバークロップ(緑肥)

2. 環境保全型農業に係る施策の変遷

- 平成19年度 農地・水・環境保全向上対策 スタート
- 平成23年度 環境保全型農業直接支援対策
- 平成26年度 日本型直接支払制度として位置づけ。
- 平成27年度 法制化「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」

国内における施策の変遷

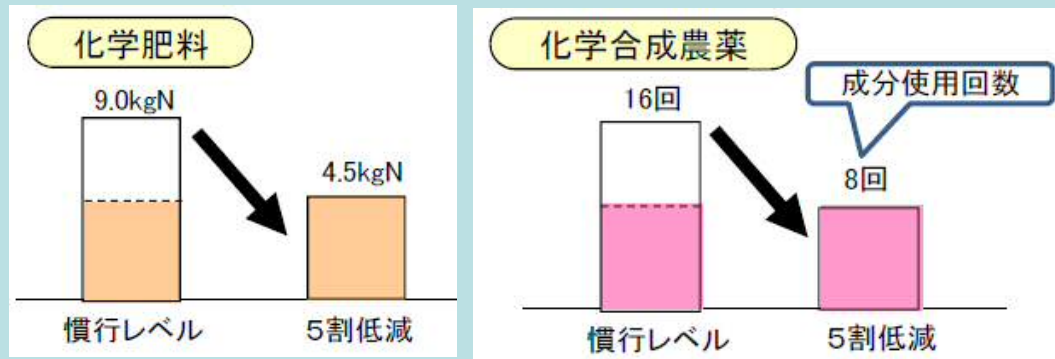


3. 環境保全型農業直接支払交付金の概要

目的

農業が本来有する自然循環機能の維持・増進を図りつつ、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組む農業者団体等に対して、取組面積に応じて直接支援する。

化学肥料、化学合成農薬を県の慣行レベルから原則5割以上低減する取組



+

地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動

カバークロープ

たい肥施用

草生栽培

有機農業

農業者

農業者団体等

当該農業生産活動を推進するための活動
【推進活動】

○カバークロップ（緑肥）の作付 ○堆肥の施用

とは

農地に還元されたカバークロップ（緑肥）や堆肥の一部が
土壌有機炭素となり土壌中に貯蔵され、地球温暖化防止に貢献



レンゲ



ヘアリーベッチ

カバークロップ

農作物を栽培していない時期に、
露出する地表面をカバークロップ
（緑肥等）で覆う取組



堆肥の施用

農作物の栽培期間の前後いずれ
かに堆肥を適正量施用する取組

○有機農業とは

化学肥料、化学農薬を使用しないことにより、環境への負荷を軽減し、生物多様性の確保につなげる



農作物の生産過程において、化学肥料及び農薬を使用しない取組

○草生栽培 とは (愛知県の地域特認取組)

園地に麦類や牧草等を作付けすることにより、土壌浸食防止、有機物補給の効果がある
雑草抑制防止効果により除草剤使用回数低減にもつながる



果樹園の草生栽培

(梨園でのナギナタガヤ)

園地の下草として、麦類や牧草を
等を作付ける取組

県内の取組地域
○大府市のブドウ
○安城市の梨

<推進活動の内容>

以下の取組のいずれか一つ以上を実施する

自然環境の保全に資する農業の生産方式を導入した

- 農業生産活動の**技術向上に関する活動**
- 農業生産活動の**理解増進や普及に関する活動**
- 農業生産活動により生産された農産物の**販売促進に関する活動**
- その他自然環境の保全に資する農業生産活動の**実施を推進する活動**

<取組の単価>

支援対象となる取組	支援単価	備考
カバークロープ	8,000円／10a	全国共通取組
炭素貯留効果の高い水質保全に資するたい肥の施用	4,400円／10a	
有機農業	8,000円／10a	
草生栽培	8,000円／10a	愛知県地域特認取組

※化学肥料及び化学合成農薬の使用を地域の慣行から原則として5割以上低減する取組とセットで行う。

＜旧対策との比較＞

	旧対策（H23～26年度）	法施行後（H27年度以降）
対象者	<p>農業者 共同販売経理を行う集落営農、農業者グループ</p>	<p style="color: red;">農業者の組織する団体 一定の要件を満たし市町村が特に認める農業者</p>
対象活動	<p>化学肥料・農薬の使用を地域の慣行から原則として5割以上低減する取組とセットで行う、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動</p>	<p style="background-color: yellow; color: red; padding: 5px;">+当該農業生産活動を推進するための活動（推進活動）</p>
交付ルート	<p style="text-align: center;">※交付ルートは国と地方公共団体の2つ。</p>	<p style="text-align: center;">※交付ルートは一本化。</p>

4. 実施状況

○ 平成27年度の実施面積は402ha（対前年比 92%）

年度	実施市町村	実施件数(件)	実施面積(ha)					
			合計	カバー クロープ	堆肥	有機農業	草生栽培	IPM
H25	23	167	420	161	155	102	1	—
H26	23	168	437	148	185	103	1	—
H27	21	93	402	101	200	100	1	0

平成27年度は、支援対象が個人から団体に変更となったこともあり、実施市町村数、実施件数、実施面積が減少した。

H27年度 環境保全型農業直接支払交付金総額

○ 平成27年度交付金の総額は 24,972千円(対前年比88%)

単位：千円

年度	カバーク ロップ	水質保全 に資する 堆肥の施 用	有機農業		草生栽培	合計※
			右記載分 を除く	そば、あわ、 ひえ、きび及 び飼料作物		
交付金単価	8,000円/10a	4,400円/10a	8,000円/10a	3,000円/10a	8,000円/10a	
H25	12,898	6,820	8,171	33	83	27,977
H26	11,801	8,142	8,254	0	83	28,282
H27	8,052	8,778	8,036	0	106	24,972

平成27年度は、単価の低い堆肥施用の取組が増え、面積減以上の金額減となった。

※同一人物による重複した活動も含まれるため、各支援対象活動ごとの交付対象面積の和と合計面積は一致しない。

平成27年度 地域別環境保全型農業直接支払事業の取組状況

○ 知多・西三河・豊田加茂の取組面積が大きい。

農林水産事務所	実施市町村	申請件数(件)	実施面積(ha)				
			合計	カバークロップ	堆肥	有機農業	草生栽培
尾張	4	14	19.0	14.9	0	4.1	0
海部	2	3	52.1	6.0	46.1	0	0
知多	6	11	84.2	60.6	0	22.8	0.8
西三河	3	8	94.5	2.4	89.2	2.6	0.3
豊田加茂	1	36	79.9	0.3	45.4	34.2	0
新城設楽	2	4	22.3	4.1	0	18.2	0
東三河	3	17	50.1	12.4	18.8	18.6	0.3
合計	21	93	401.9	100.7	199.5	100.5	1.3

端数処理により合計は合わない

特に取組が多い地域

- カバークロップ・・・知多
- 堆肥・・・西三河

- 有機農業・・・豊田加茂

- 草生栽培・・・知多、西三河、東三河

H27年度 作物区分ごとの取組面積

○ 水稲・麦・大豆の取組面積が全体の7割を占めているが、水稲は、面積・シェアが減少した。

単位:ha、下段はシェア%

年度	計	水稲	麦・大豆	いも・野菜類	果樹・茶	花き・その他
H25	422	238	61	62	50	11
		56%	14%	15%	12%	3%
H26	437	248	57	69	54	9
		57%	13%	16%	12%	2%
H27	402	207	68	63	58	6
		51%	17%	16%	14%	2%

平成27年度は、水稲の法人が減少したことで、水稲が減った。収量増に向けた取り組みへシフトしたことが考えられる。